

229.64

D12

(H0)

# 記憶の中のソ連

中央アジアの人々の生きた  
社会主義時代

ティムール・ダダバエフ 著

寄贈図書

筑波大学出版会

10010542

# まえがき

本書のもととなった研究は、多くの研究機関や財団、研究者の支援により実施可能となった。その出発点は、2005年に発足した人間文化研究機構（NIHU）プログラム「イスラーム地域研究」の東京大学拠点（拠点リーダー：小松久男東京大学教授）における「中央ユーラシアのイスラームと政治」研究グループにより実施された研究であった。

この研究にかかる調査は2006年以降に実施されたが、その間、東京大学をはじめとする多くの大学や研究機関から、現地調査と資料収集に対する支援を受けた。なかでも、筑波大学人文社会科学研究科と筑波大学中央アジア国際連携センター（小野澤正喜名誉教授、西村よしみ名誉教授、臼山利信准教授、河野明日香助教など）からの助成と支援により、本書の刊行が可能となったことを特筆しておきたい。

この他、本書に関連する研究は、上記の「イスラーム地域研究」拠点と筑波大学からの支援に加え、文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）「中央アジアの社会の持続性：ウズベキスタンの近隣コミュニティ（マハッラ）の実態調査」（2007-2009）と、平成20年度筑波大学人文社会科学研究科プロジェクト「中央アジアにおけるソ連時代の記憶」（2008-2009）などの助成を受けて、実施された。さらに、財団法人JFE 21世紀財団2008年度アジア歴史研究助成「ソ連時代の記憶」（2008年）と文部科学省科学研究費補助金若手研究（B）「記憶の中のソ連時代：中央アジア地域研究のための映像資料作成の試み」（2009-2010）の支援により、定期的な現地調査や研究協力者との打ち合わせ、収集資料の分析などが可能となった。

加えて、既述の研究で得たデータの分析と先行研究の収集の機会、類似するプロジェクトとの比較の視点を提供してくれたのは、国立民族学博物館を中心に実施された文部科学省科学研究費補助金基盤研究A「モンゴル・中央アジアにおける社会主義的な近代化に関する比較研究」（2009-2014、代表者：小長谷

有紀国立民族学博物館教授)と、文部科学省科学研究費補助金特別推進研究「日韓米独中における3レベルの市民社会構造とガバナンスに関する総合的比較実証研究」(2006-2009, 代表者:辻中豊筑波大学教授)であった。

さらに、ウズベキスタンをはじめとする現地調査とインタビューの実施は、ウズベキスタン外務省付属世界経済外交大学の協力により可能となった。なお、本書には、拙著『社会主義後のウズベキスタン』(アジア経済研究所, 2008年)に収録されたインタビューを数点再収録した。該当箇所には\*を付記したが、再収録にあたり、一部、文体、表現を変更しているのでご了承いただきたい。また、本書で使用されている複数の写真は、前出の世界経済外交大学とウズベキスタン国家映像アルカイブ、そして「タシケント写真館 (Dom Fotografii)」の協力によって得られたものであり、本書の主題であるソ連時代を表象するために欠くことのできない資料となっている。なお、各写真提供時に付随してきた情報は、各写真説明の【 】内に記した。

最後に、筑波大学出版会(編集長:谷川彰英特任教授)の理解と支援なくしては、研究の成果を本書にまとめることはできなかったことを申し添えておきたい。

この場を借りて、以上の機関や関係者に深く感謝を申し上げる次第である。

2010年5月10日

ティムール・ダダバエフ